北九州市立則松中学校

【学校ホームページアドレス】
www.kita9.ed.jp/norimatsu-j

ジャガイモ

校長通信　№３０２

令和６年　３月２２日

「 創立５０周年に向けて② 」

校長　江　口　　満

【前号からの続き】また開校式や入学式に向け、校旗がなくてはなりません。そのため校名決定後、直ちに校章のデザイン募集をしました。多くの応募作品を慎重に検討し、専門家の当時県立八幡高校美術科の先生が手を加えられ、校章の原図ができ上ります。「中の字の中に則の字が重ねられ、則松中学校生徒が無限に広がる大空に向かって、大きく飛躍するように」との願いが込められています。

そして開校に伴い、校名、校旗、校章の次に作らないといけないもの、それは校歌です。校歌作成に次のようなエピソードが残されています。初代下田保郎校長が創立十周年記念誌に寄せられた文章を紹介します。

本校は入学から三年間、全ての学年で箏や三味線の演奏体験学習を行っています。これらの行事は本校ならではの伝統です。【上】12月・１月に行った三味線の演奏体験学習【下】11月二行った箏曲体験学習の様子。これら伝統文化教育は、ＰＴＡからご支援いただいて開催しています。

「開校してもう一つ忘れられない思い出の一つが、校歌作成のことである。二学期のある日、ＰＴＡのＫ会長が私に「校歌を作るのは初代校長の仕事ですから、卒業式に間に合うように作ってくださいよ。」と言われて、私は愕然（がくぜん）としてしまった。校歌はえらい有名人が作るものだと考えていたので、まさに青天の霹靂（へきれき）であった。しかし逃げるわけにはいかないので、その作業に取り組んだ。まず広く生徒・父母・地域から歌詞を募集した。残念ながら応募の歌詞は数も少なく、これはと思うのはなかった。そのため止むを得ず、乏しい知識をかき立て、歌詞を考えた。そして一応のかっこうを付け、教育委員会のこの道のベテランのＴ指導部長に修正をお願いした。Ｔ部長のおかげで、素晴らしい歌詞が出来上がり、2月初めに学校に届けられた。それを元にして音楽科のＹ先生とＡ先生の二人に作曲をしてもらい、それを再び市教委に送り、Ｓ指導主事に手直しをしていただいた。

3月15日、ＰＴＡの手で校歌発表会が行われ、はじめて校歌を耳にし、口ずさんだわけである。当時の新聞の切り抜きによると、次のように出ている。

『14000人が元気よく一斉に卒業式』の見出しで、北九州市の中学59校は17日一斉に卒業式。約14000人が巣立った。昨春開校した八幡西区の永犬丸中(670人)と則松中(690人)では第一回の卒業式。則松中では、15日発表会をしたばかりの校歌を歌ったあと、228人の卒業生は拍手に送られた。」

(裏へ)

いかがでしょうか。またそもそも「則松」という地名の起源も諸説あるらしい。現在の則松平野は、徳川時代以前までは入海であって、永犬丸の奥まで船が出入りしていたと聞く。そうした船に乗るための待つところ、それが「のりまつ」となったという乗待説。発音からピッタリです。

また「則松」という人の田んぼがあったのではないかという人名説もあります。日本の地名発生源からもっとも信憑性(しんぴょうせい)があるのが、「のりの松説」です。ゆるやかな傾斜地のことを「のり」という。海が永犬丸まで入り込んでいた往時(おうじ)、現在の則松平野は海面であり、その波打際(なみうちぎわ)からゆるやかな丘陵地帯になっており、その丘陵(のり)には、かつて松がいっぱい生えていたので、「のりに松があるところ」が、「則松」となったと考えられています。

このように開校当時の歴史を調べてみても、まだまだ語りつくせないものがあります。そして今、開校して半世紀の年月が経ちました。開校してからの50年間をもし文章化してみたならば、同じ月日を必要とするのでしょうか。過ぎ去ってしまえば、一瞬の出来事だったのでしょうか。ずっと生徒の皆さんを見つめてきた校舎や体育館、グランドが、長く感じているのか、短く感じているのかは分かりません。

【上】11月21日(火)「学びチャレンジリーディングスクール事業」公開授業の様子

しかし、この校舎や体育館、グランドにはいつも生徒の皆さんがいた。それを支え、共に活動し学んだ熱き先生方がいた。いつも声援を送ってくれた保護者や地域の皆さんがいた。そして一年一年、感動を創造し、伝統を紡いできた。本年度、50年間に比べるとほんの短い時間だったかもしれないけれど、令和5年度というこの一年で「守破離」という伝統を、私たちは、確かに則松中学校の歴史に刻んだ。

4月、いよいよ私たちは創立50周年という節目の年を迎えます。そして、創立50周年に向けてその第一歩を踏み出し、どのような足跡を残すのかは、君たち自身が決めることです。明日からの春休みは、その準備期間です。

一年間、君たちの成長と活躍、先生方の熱き指導に、保護者の皆さん、地域の皆様のご支援に心から感謝します。有り難うございました。

「みんなちがってそれがいい」　１年３組　Ｓさん

今回の寺田さんの話を聞いて、「みんなちがってそれがいい」が心に残りました。「で」が「が」に変わるだけで、その言葉の印象が違うと思いました。生きるために大切なことは、どんなときでも自分らしく生きることだと分かりました。生きづらいと感じるそばに、「あなた」という存在がいるだけで、勇気になることも知りました。それを知ることで、あなたの存在が人を救う可能性に繋がることも分かりました。

また誰かに「あなた」がいるだけでという存在に自分がなれるようにもがんばりたいと思いました。自分を認めるからこそ、他人を認めることができるということも印象的でした。まずは自分の心と向き合い、自分を認める箏から始めていこうと思います。

【上】12月20日(水)1年保健体育科「創作ダンス発表会」熱演の様子

「内面まで見つめて」　２年４組　Ｓさん

今回の公演を聞いて、人は一人一人違うところがたくさんあって、見た目で決めることがよくないと思い、しっかり相手の気持ちを考えて接したり、内面まで見て判断したりすることが大切だと思いました。

また人生の選択の場面では、自分の考えが回りと違ったとしても、周りの人に流されずに自分の考えを貫くことが大切だとも分かりました。家族や学校の先生など、自分のことを信じてくれる人を大切にする必要があり、自分のことを信じてくれる人を大切にしておくことで、大切な場面で迷った時に頼ることも大切だと分かりました。今後は自分と考えが違う人など友達にもたくさんいると思うので、見た目だけで判断するのではなく、しっかり内面も理解して接し友達と仲良くしていきたいと思います。